

P3-A-1141**医療機関における多職種連携教育 (IPE) の実施と自己効力感, 社会的スキルの変化**藤橋雄一郎¹⁾, 小林 修²⁾, 山下 政和²⁾, 三浦 早紀²⁾, 吉村 学³⁾¹⁾平成医療短期大学 リハビリテーション学科理学療法専攻,²⁾揖斐郡北西部地域医療センター 山びこの郷, ³⁾揖斐郡北西部地域医療センター**key words** 多職種連携・医療機関・アンケート**【はじめに, 目的】**

厚生労働省は 2025 年を目途に可能な限り住み慣れた地域で, 自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう, 地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)を構築するとしている。地域包括ケアシステムでは介護, 医療, 予防, 住まい, 生活支援の 5 つのサービスを一体的に受けられる支援体制を構築するとしており, 各保健医療福祉の多職種が密に連携することが望まれている。そのためには, 他の職種を理解し尊重すること, 情報を的確に伝えるコミュニケーション能力が必要となる。現在の若者は, 経験・特に対人関係の経験不足, 対人関係能力の未成熟な学生が年々増加している等の報告がなされており, 早い段階から他者とのコミュニケーションを図る必要性が求められている。前述の状況から, 近年は多職種連携教育 (IPE) や多職種協働 (IPW) が様々な場で行われている。養成過程時に IPE を経験することで, 他の職種に対する理解や重要性, 卒業後の医療・福祉現場における他の職種へのギャップを減らすことができると考える。また, コミュニケーション能力の向上にも有効であると考え。今回, 医療施設での IPE 研修会を実施し, 社会的スキル及び自己効力感を測定した。その内容の報告及びアンケート調査による考察を含め報告する。

【方法】

IPE 研修会の参加者は 13 名で男性 6 名, 女性 7 名あった。参加者の職種内訳は医学 6 名, 看護 4 名, 理学療法 2 名, 言語聴覚療法 1 名であった。IPE 研修会は 4 泊 5 日の行程で行われた。1 日目はオリエンテーションと懇親会が行われた。2 日目は担当事例のカルテ閲覧, 他職種からの情報収集による担当症例評価, 他職種同行研修が行われた。3 日目は, 2 日目の内容に加え, 症例事例検討, 地域住民宅へのホームステイを実施した。4 日目は, 同日夜に実施する地域住民との座談会において健康に関する講義を実施するための準備を行った。5 日目は, IPE グループワークを実施し, 研修会の振り返りを行い終了した。調査は初日のオリエンテーション時と最終日に自記式質問紙法を用いて実施した。自記式質問紙法には, 看護領域などで用いられている「対人関係を円滑に運ぶ為に役立つスキル」Kikuchi's Scale of Social Skills: 18items (Kiss-18) と個人が自己効力感をどの程度認知する傾向にあるのかを測定する General Self-Efficacy Scale (GSES) を用いた。得られたデータより, Kiss-18 と GSES の初日と最終日の平均値を算出した。Kiss-18 と GSES のそれぞれの初日, 終了日の関連性を Spearman の順位相関係数, Wilcoxon の符号付順位検定を用い比較し, 有意水準を 5% 未満とした。

【結果】

調査協力を得た 13 名を分析対象とした。有効回答率は 100% であった。Kiss-18 の平均値は初日 59.8 ± 9.7 , 最終日 67.1 ± 10.6 (初日最大値 71, 初日最小値 43, 最終日最大値 88, 最終日最小値 47) であった。GSES の平均値は初日 7.7 ± 2.2 , 最終日 8.4 ± 2.6 (初日最大値 12, 初日最小値 5, 最終日最大値 13, 最終日最小値 4) であった。Kiss-18 の初日と最終日には $r = 0.6$ $p = 0.03$ と有意な相関が認められた。GSES の初日と最終日には $r = 0.35$ $p = 0.25$ と有意な相関は認めなかった。Kiss-18 と GSES の初日と最終日の比較では, 初日に比べ最終日において有意に高くなっていた ($p < 0.05$)。

【考察】

調査より得た Kiss-18 と GESE の初日及び最終日の平均値を用い, Kiss-18 と GSES の標準値と比較した。Kiss-18 の標準値は, 成人男子 61.82 ± 9.41 , 女子 60.1 ± 10.5 , 大学生男子 56.4 ± 9.64 , 女子 58.35 ± 9.02 , である。本結果と比較し, 初日は大学生男女を, 最終日は成人男女を上回る結果となった。GSES の標準値は, 成人 9.59 ± 3.89 (男性 10.12 ± 3.78 , 女性 9.12 ± 3.93), 学生 6.58 ± 3.37 である。本結果と比較すると, 成人の標準値よりは低いものの, 学生の標準値を上回る結果となった。このことから, 今回実施した 4 泊 5 日の IPE 研修会は, 参加学生の社会的スキル, 自己効力感を向上させたと言える。今回の研修会では, 担当事例に対しカルテ閲覧, 情報収集, 同行研修を行ったことで, より細かな情報が得られた。また, 他職種が注意していることを同行研修において確認できたことで, 初日と最終日で Kiss-18, GSES のスコアが向上したと思われる。

【理学療法学研究としての意義】

医療機関での IPE は, 他職種とのコミュニケーションを図ることで, 自らの知識不足や他職種の理解が深まり, 学生の社会的スキル, 自己効力感を向上させ更なる意欲の向上に繋がる。